

【事業名称】

日中国交正常化 40 周年記念「世界最大 恐竜王国 2012」

【開催日時】

2012 年 7 月 21 日～9 月 23 日

【開催場所】

千葉県・幕張メッセ国際展示場 10・11 ホール

【主催者・共催者等】

(主催) テレビ朝日、キョードー東京、電通、文化放送、汎企画 21 など

(共催) 公益社団法人日中友好協会

(後援) 外務省、駐日中国大使館、千葉県、千葉市など

【事業内容】

中国山東省諸城市の「諸城市恐竜博物館」が全面的に協力した本博は、2008 年に同市で発見された世界最大の恐竜発掘地を焦点に新たに発見された恐竜の進化と生態の謎に迫った。

中国で初めて全身骨格として復元されたティランノサウルス類のズケンティランヌス(全長約 11 メートル)の全身骨格を中心に、展示標本は 200 点を超えた。さらに全長約 19 メートルを超える世界最大のハドロサウルス類フアシアオサウルスや、大型角竜類のシノケラトプス(全長約 6 メートル)など、日本初公開の化石標本や、世界最新の恐竜コレクションの展示標本が集結した。中でも、世界初公開となった大型羽毛恐竜「ユティランヌス・フアリ(羽王竜・はおうりゅう)」の全身化石と復元骨格は大きな話題となった。

会期中は、幼児から小学生ぐらいまでの多くの子どもたちでにぎわい、親の手を引いて場内を急ぐ様子があちこちで見られた。夏休みの「自由研究の課題に」と訪れる子どもも少なくなく、メモ帳とペンを手に、熱心に恐竜の名前を書き連ねる姿も見られた。

会場でとりわけ人気が高かったのが、各所に設置された「体験コーナー」で、ティランノサウルスの「視線」や「噛む力」を体験できる装置、操縦レバーで自ら動かすことができる「恐竜ロボット」には順番待ちの長い列ができた。「化石発掘体験コーナー」では、砂に埋もれたアンモナイトの化石をはけを使って掘り起こす作業にも挑戦することができ、「生物学者」になりきった子どもたちからは「お父さん、見つけたよ」「化石あったよ」などの大きな歓声が上がった。



フアシアオサウルスの全身骨格

会場にはまた、日本に住む中国人家族の姿も見られ、「子どもが来たいというので連れてきたが、恐竜の化石が中国から来たことは興味深い」との感想も聞かれ、国交正常化 40 周年記念事業にも位置づけられた本博は日中交流の発展にも大きく寄与した。



操作可能な実物大のティランノサウルスロボット



アンモナイトの化石発掘コーナーで体験する子供たち